

黒沢洞合自然公園 整備検討委員会の検討の経過

1 令和3年度第一回黒沢洞合自然公園整備検討委員会(令和4年3月18日開催)

今後の検討にあたっての前提条件や既存公園整備の経過を確認した。

2 令和4年度第一回黒沢洞合自然公園整備検討委員会(令和4年7月29日開催)

「現在のビオトープを継承し延長拡大する形の自然公園」で整備を進める方針を決定。

検討委員から「棚田など昔の風景を呼び起こすような整備」や「整備されすぎている公園」、「親子で昆虫や植物に触れ合える」等の公園づくりの意見が出た。

公園づくりに若い人の発想を取り入れたいため、南安曇農業高等学校に協力を打診する方針が決まった。

3 令和4年度第二回黒沢洞合自然公園整備検討委員会(令和4年10月13日開催)

前回までに出された意見を基に事務局にて黒沢洞合自然公園拡張整備基本方針(案)を作成し、委員へ提示。基本方針(案)について意見をもらい方針を練り上げ右記の基本方針を策定した。

4 令和4年度第三回黒沢洞合自然公園整備検討委員会(令和5年2月15日開催)

南安曇農業高等学校関係者が検討委員会に参加。同校生徒2名が公園づくりに参加することが決まった。拡張整備後の運営・管理方法について議論を行った。

5 令和5年度第一回黒沢洞合自然公園整備検討委員会(令和5年8月8日開催)

ワークショップ形式で基本計画(案)作成に向けた公園づくりの立案。

トイレの設置の必要性や、来園する層を念頭にした進入路や駐車場に関する検討を行った。

人の手が加わったビオトープや昆虫たちのための草原的な空間を設けるアイデアが出された。

公園内の水量確保や有害鳥獣対策等の課題などが挙げられた。

6 令和5年度第二回黒沢洞合自然公園整備検討委員会(令和5年8月21日開催)

南安曇農業高等学校生徒が同席し、公園づくりに関しての意見交換を行った。

進入路や駐車場に関する再検討。

トイレや駐車場、見晴らしの場所等、拡張地のゾーニング(場所的な役割)についての意見を集約した。

バリアフリーに配慮した園路や施設配置の提案があった。

7 令和5年度第三回黒沢洞合自然公園整備検討委員会(令和5年9月19日開催)

これまでの意見をとりまとめた基本計画(案)の確認を行った。

黒沢洞合自然公園拡張整備基本方針

■コンセプト

黒沢洞合自然公園の拡張により里山の自然を保全・創造し、また、里山の豊かな自然環境や動植物とふれあうことで、子どもも大人も未知の体験に胸を弾ませ、里山の自然を楽しみ活用するビオトープ型の自然公園。

■整備目的

- ①失われつつある里山の自然環境を、次世代への環境遺産として継承するために、公園を整備し保全する。
- ②希少となった里山の自然環境に、子どもも大人も容易に触れ合い経験できる場を提供する。

■整備方針

【全体】

里山の中に開かれた広大で開放的な、成長するビオトープ型の公園。

【方法】

- ・ 公園拡張予定地のデザイン設計・施行には、南安曇農業高校の生徒が学習や実習を兼ねて参加予定。子どもに近い感性で子どもが必要と考える自然公園の提案をいただく。具体的な設計にも生徒の意見を取り入れる。
- ・ 市民が関わる公園づくりのために、子どもによる植樹等の実施を計画に含める。

【構成】

- ・ 自生する生物が集まり繁殖しやすい空間を確保する。
- ・ 最初から作り込み過ぎず、植物の自然な成長を観察できるようにする。
- ・ 子どもや親子が昆虫、植物の採取を自由にできるようにする。
- ・ 環境に配慮したうえで、教育保育機関等が体験活動・学習活動・観察会等の利用を想定する。

【動線】

公園内を回遊でき、変化も楽しめる園路

【施設】

里山の自然に配慮し、設備は原則設置しない。

【その後の活用】

市民が気軽に里山の自然に触れ合える場として活用いただく。

また、学校や認定こども園等に呼びかけ、学習活動の一貫として活用してもらう。